

第11回 大阪社会福祉士学会のご報告

生涯研修センター調査研究部会 遠藤幸一

2023年11月18日(土)に「第11回 大阪社会福祉士学会」を開催しました。本学会は、会員の皆様の実践および研究を発表する場を提供することで、生涯研修制度への対応、ならびに大阪社会福祉士会が推進する実践研究について内外に発信する機会とすることを目的として各後援団体の支援を受けながら毎年開催しています。今回の参加者は64名とコロナ禍後の会場開催を行った昨年より多くの方に参加いただくことができました。

本学会は、基調講演と各種分科会のプログラムを行いました。今回の基調講演は、日本福祉大学社会福祉学部 准教授 久保樹里氏に「これからのこども家庭福祉ソーシャルワークの方向性」というテーマで、こどもと家庭を取り巻く課題と対応、こども家庭福祉の今後の方向性、これからの方向性を実現するために活用ーラップアラウンドの紹介について講演いただきました。どれも参加者の関心を引き付けるもので、「現状だけではなく、これからの支援のためのアプローチする方法が聞けたことがよかった。根拠となる数字や具体的な事例 そのアプローチ方法についてまで、多岐にわたる内容で充実していました。」と満足度の高いものとなりました。

分科会は3つの分科会を開催しました。第1分科会「実践報告会・自由研究発表」は、3名の会員による実践報告発表が行われました。社会福祉士が専門職として果たす役割を3名それぞれが、福祉経営・認知症当事者、家族の支援・ボランティア、新たな社会資源の提供の観点からご発表いただきました。第2分科会では子ども家庭福祉プロジェクト企画として「今のいじめ対応とは?～いじめ防止に関する制度と社会福祉士への期待～」をテーマに、3名の会員の有識者にいじめに関する制度、いじめ対応における社会福祉士の役割の確認や実践等を発表いただきました。「いじめに関する基本的な知識を改めて確認することができた。審議会委員や調査員の方の生の話が聞けて、同感することも多く、明日からの実務に役立つと思います。」と参加者より感想がありました。第3分科会では実行委員会企画シンポ

ジウムとして、地域包括支援センターの実践にもとづき、コロナ禍・withコロナにおける地域活動の取り組みや課題の共有・これらを踏まえた地域活動における社会福祉士の役割・専門性の考察を試みることを目的に桃山学院大学教授梅谷進康氏をコーディネーターとして、3名の地域包括支援センターの会員に地域活動の実践を報告いただきました。参加者より「手探りでコロナ禍を乗り越えてきたプロセス、実践を聞かせていただいて、社会福祉士のあるべき姿を再認識させていただきました。」と声があるなど、活力の得られる実践を共有できました。

本学会を通して、多くの会員の皆様が実践研究を実際に進めていくための手がかりとなるだけでなく、この学会が会員同士の交流の機会になることを願っています。最後になりますが、本学会の基調講演にご登壇いただいた久保先生をはじめ、自由研究発表された会員様・シンポジストにご登壇いただいた皆様に心よりお礼申し上げます。また学会運営に協力をいただきました会員及び事務局の皆様にも改めてお礼申し上げます。



地域
情報

対面復活で、さらに新しいことにチャレンジする豊能支部

豊能支部 桑原美貴

豊能支部は、会員数約250名、豊中市、吹田市、箕面市、池田市、豊能町、能勢町の4市2町で活動しております。このエリアでは、北大阪急行の延伸や万博開催に向けて再度脚光を浴びている万博記念公園などがあり、地域ニュースも多々あるエリアとなっております。

豊能支部の活動は、対面でのイベントも復活しており、見学会を6月に株式会社スタートライン、11月に川村義肢株式会社(川村代表の講演会付き)で開催しました。実際に物が作られていく現場を見るのは非常に学びになり、参加者からの質問も多く出ておりました。見学会終了後も希望者で懇親会を行い、飲み食いしながら活発に様々な意見を聞ける場となっております。

Bar茶る豊能も前年度に引き続き定期開催し、大阪府災害派遣福祉チーム(DWAT)についてゲストに来ていただいて勉強会、後見人活動についてのお話、強度行動障害についてゲストに来ていただいて勉強会、生活保護申請についてケースワーカーをされている方に来ていただき、質疑応答を行う、などを行いました。定期的に参加していただく

方や新しく参加される方、他支部の方様々な方に来ていただき、毎回盛況に開催しております。

運営会議はほぼ毎月Zoomで行い、運営委員間での意見交流も活発に繰り返してきました。運営委員の中で、今後やってみたいイベントのテーマなどの案もたくさん出ているので、今後実現に向けて活動していこうと思っております。

また、納涼会や新年会など、忌憚なく会員の皆さまの意見を聞ける場を再開することもできました。

まだまだ、豊能支部会員さんの一部しかお会いできていない状況なので、様々なイベントを行う上で、多くの会員さんと出会い、一緒に豊能支部を盛り上げていければと思っております。

運営委員もまだまだ募集中ですので、みなさん一緒に豊能支部の活動をしていきませんか？

豊能支部 Facebook

<https://www.facebook.com/osakatoyono/>

あなたにこの本を

大阪市立図書館 推薦図書より

聞くこと、話すこと。一人が本当のことを口にするときー

尹雄大／著 大和書房 1700円

インタビュアーとして長年活躍してきた著者が、話を聞く、話すとはどういう体験かについて考えを巡らせた。認知症高齢者の尊厳を奪わないケア技法の実践者、自殺願望のある人からの電話相談を受け続ける建築家といった、様々な立場の人々へ取材する。その中で、時間をかけて自分の中に培われた善悪正誤の基準を捨て、ひたすら相手の話を聞くこと、相手を尊重して対話することの大切さに気づいていく。自己の内面を見つめ丁寧に言葉を尽くす筆致から、著者の誠実さが伝わる。

師弟百景 ―“技”をつないでいく職人という生き方―

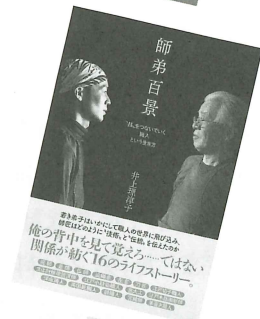
井上理津子／著 辰巳出版 1600円

一子相伝ではない16組の職人の師弟を取材し、伝統的な技が受け継がれていく様と師弟間の信頼関係をつぶさに描き出す。江戸切子に一目ぼれしてネイリストから転職する、遺品の着物を日傘にしたいと洋傘職人になるなど、様々な理由で職人世界に飛び込んだ若い弟子たち。かつて親方の背中を見て覚えた師匠は言葉を惜しまず技法を伝え、弟子もスマホで写真を撮り、毎日その画像を見て復習する。変化を恐れず、伝統を未来へつなげようと奮闘する師弟の姿に勇気づけられる。

先生がいなくなる

内田良・小室淑恵・田川拓磨・西村祐二／著 PHP 研究所 980円

教職の魅力を語ってもらおうと、文科省がSNSを中心に展開した「#教師のバトン」には、予想に反して現場の悲鳴が集まり、教員の働き方に対する世間の関心を高めた。本書は、教員の基本給に4%を上乗せし残業代を原則支払わない「給特法」の問題点を指摘し、国内外の調査や事例もふまえ改善策を論じる。「定額働かせ放題」とも批判される労働形態は今や学校以外にも広がる。社会全体の働き方と子どもの未来のため、教員の職場を今こそ変えようと働きかける一冊。



活動予定

2月

1 木	なにわだより発行
2 金	
3 土	医療・福祉関係者のための成年後見活用講座
4 日	
5 月	相談C 支援班会議
6 火	
7 水	
8 木	生涯研修C 研修部会／子ども家庭P 冬の講座②
9 金	
10 土	近畿ブロック大阪大会：大阪府社会福祉会館
11 日	近畿ブロック大阪大会：大阪府社会福祉会館 創立30周年記念式典：ホテル アウィーナ大阪
12 月祝	
13 火	
14 水	
15 木	支部長会議／地域包括NW委員会
16 金	
17 土	
18 日	基礎研Ⅰ
19 月	
20 火	
21 水	
22 木	子ども家庭P 冬の講座③
23 金祝	
24 土	独立型 実施報告会
25 日	
26 月	
27 火	相談C 相談部会
28 水	
29 木	

3月

1 金	
2 土	SV振り返り会議／実習指導者養成委員会意見交換会
3 日	
4 月	相談C 支援班会議
5 火	
6 水	
7 木	
8 金	
9 土	
10 日	
11 月	
12 火	理事運営会議
13 水	地域包括NW委員会
14 木	生涯研修C 研修部会
15 金	
16 土	理事会
17 日	
18 月	
19 火	相談C 運営会議
20 水祝	
21 木	
22 金	
23 土	
24 日	
25 月	
26 火	
27 水	
28 木	
29 金	
30 土	
31 日	



地域情報

対面復活で、さらに新しいことにチャレンジする豊能支部

豊能支部 桑原美貴

豊能支部は、会員数約250名、豊中市、吹田市、箕面市、池田市、豊能町、能勢町の4市2町で活動しております。このエリアでは、北大阪急行の延伸や万博開催に向けて再度脚光を浴びている万博記念公園などがあり、地域ニュースも多々あるエリアとなっております。

豊能支部の活動は、対面でのイベントも復活しており、見学会を6月に株式会社スタートライン、11月に川村義肢株式会社(川村代表の講演会付き)で開催しました。実際に物が作られていく現場を見るのは非常に学びになり、参加者からの質問も多く出ておりました。見学会終了後も希望者で懇親会を行い、飲み食いしながら活発に様々な意見を聞ける場となっております。

Bar茶る豊能も前年度に引き続き定期開催し、大阪府災害派遣福祉チーム(DWAT)についてゲストに来ていただいて勉強会、後見人活動についてのお話、強度行動障害についてゲストに来ていただいて勉強会、生活保護申請についてケースワーカーをされている方に来ていただき、質疑応答を行う、などを行いました。定期的に参加していただく

方や新しく参加される方、他支部の方様々な方に来ていただき、毎回盛況に開催しております。

運営会議はほぼ毎月Zoomで行い、運営委員間での意見交流も活発に繰り返してきました。運営委員の中で、今後やってみたいイベントのテーマなどの案もたくさん出ているので、今後実現に向けて活動していこうと思っております。

また、納涼会や新年会など、忌憚なく会員の皆さまの意見を聞ける場を再開することもできました。

まだまだ、豊能支部会員さんの一部しかお会いできていない状況なので、様々なイベントを行う上で、多くの会員さんと出会い、一緒に豊能支部を盛り上げていければと思っております。

運営委員もまだまだ募集中ですので、みなさん一緒に豊能支部の活動をしていきませんか？

豊能支部 Facebook

<https://www.facebook.com/osakatoyono/>

あなたにこの本を

大阪市立図書館 推薦図書より

聞くこと、話すこと。一人が本当のことを口にするときー

尹 雄大／著 大和書房 1700円

インタビューアとして長年活躍してきた著者が、話を聞く、話すとはどういう体験かについて考えを巡らせた。認知症高齢者の尊厳を奪わないケア技法の実践者、自殺願望のある人からの電話相談を受け続ける建築家といった、様々な立場の人々へ取材する。その中で、時間をかけて自分の中に培われた善悪正誤の基準を捨て、ひたすら相手の話を聞くこと、相手を尊重して対話することの大切さに気づいていく。自己の内面を見つめ丁寧に言葉を尽くす筆致から、著者の誠実さが伝わる。

師弟百景ー“技”をつないでいく職人という生き方ー

井上理津子／著 辰巳出版 1600円

一子相伝ではない16組の職人の師弟を取材し、伝統的な技が受け継がれていく様と師弟間の信頼関係をつぶさに描き出す。江戸切子に一目ぼれしてネイリストから転職する、遺品の着物を日傘にしたいと洋傘職人になるなど、様々な理由で職人世界に飛び込んだ若い弟子たち。かつて親方の背中を見て覚えた師匠は言葉を惜しまず技法を伝え、弟子もスマホで写真を撮り、毎日その画像を見て復習する。変化を恐れず、伝統を未来へつなげようと奮闘する師弟の姿に勇気づけられる。

先生がいなくなる

内田 良・小室淑恵・田川拓磨・西村祐二／著 PHP 研究所 980円

教職の魅力を語ってもらおうと、文科省がSNSを中心に展開した「#教師のバトン」には、予想に反して現場の悲鳴が集まり、教員の働き方に対する世間の関心を高めた。本書は、教員の基本給に4%を上乗せし残業代を原則支払わない「給特法」の問題点を指摘し、国内外の調査や事例もふまえ改善策を論じる。「定額働かせ放題」とも批判される労働形態は今や学校以外にも広がる。社会全体の働き方と子どもの未来のため、教員の職場を今こそ変えようと働きかける一冊。

